

天皇陛下、皇后陛下の学園行幸啓を拝す

「今後とも一層、努めて**かわいがって**もらいたい」との御言葉が
(昭和26年10月27日、午前9時35分から30分間ご滞在)



六方

552

2016 9月号

編集・発行

社会福祉法人六方学園
〒739-0036 東広島市
西条町田口391-3

Tel (082)425-1015

Fax (082)425-2660

<HP>

www.roppou

gakuen.com

福来朗

天皇、園児の声に爆笑される

▲敗戦から復興に再起する人びとに励ましを
と、全国津々浦々へ天皇自らの地方巡幸が昭和二十一年
三月から始まった。それが終わる三十九年までの訪問先
は実に二百三十五か所余り、それが現天皇にも引き継が
れている。ヒロシマは原爆により、人は七十年間は住む
ことも草木も生えないと内外へ発信されていた。▲現実
は、原爆ドーム周辺にも家が建ち並び、草木も生え着々
と市民が立ち上がっていた。この光景に応じられ早くか
ら天皇陛下は臆することなく度々の広島入りを。やがて
昭和二十六年十月二十七日から第六回秋季国民大会が
「原爆の町」で一万五千人の選手を迎え開催された。▲
開会式に臨まれるため宮島口の一茶苑で二日間のご静
養を。翌十月二十七日九時御出発され、ABC視察を
変更され「六方学園御幸啓」となる。定刻の九時三十五
分に学園へ到着され御在所にて園長の「奏上の辞」を申
し上げ二十五分滞在の日程に従い園内をご案内。運動場
には定められた位置に関係者が奉迎のため待機をして
いた。▲やがて講堂から外へと御姿が見え、園児たちに
慈愛の眼差しで進まれ中央の場で御言葉に続き一斉の
「万歳」の声に応じられた。一瞬静まった雰囲気の中で
お帰りの御車へと。その時、一人の園児が声高らかに一
声「万歳」と。殊の外お喜びになり、陛下は一、二歩後
もどりされ爆笑のご様子。日本経済新聞記者も、これま
で沢山お付きして歩いたが、あれほどお笑いになられた
のは初めてと聞く。

(記・園長)